

作付け遅れにもかかわらず、高生産量に向け順調に生育

乾燥した暖かい春に恵まれトウモロコシの作付けが早期にスタートした昨年とは正反対に、米国の農家のトウモロコシの作付けと生育は、湿った気温の低い春を迎えて遅れています。コーンベルトの中には、洪水に見舞われたところもあり、土壌水分を再度蓄えるために貴重な雨も、2013-14年産トウモロコシの収穫ポテンシャルを下げてしまったかもしれません。

米国農務省も、その点を考慮し、6月12日のトウモロコシの単収予測を5月の予測値から5ブッシェル下げ、156.5ブッシェル/エーカー（9.8トン/ヘクタール）としました。この数値は米国農家のトレンドとして考えられている単収より約5.6ブッシェル低いものです。それでも、今後のトウモロコシ生育期の天候が順調に推移すれば、この単収において140億ブッシェル（3億5,560万トン）という、昨年より顕著に多い生産量となります。



ネブラスカ州中央部の農家、ブランドン・ハンニカット氏のこのトウモロコシ畑のように、コーンベルトの多くの農家で、気温の上昇と日照の回復のため、トウモロコシが順調な生育を見せている。4ページのハンニカット氏の作柄も参照のこと。

温暖で乾燥した春が、引き続き高温で乾燥した夏を迎えた昨年の平均単収は123.4ブッシェル/エーカー（7.8トン/ヘクタール）となり、生産量は108億ブッシェル（2億7,400万トン）でした。2011-12年の平均単収は147.2ブッシェル/エーカー（9.2トン/ヘクタール）でした。

次の米国農務省の作付け予測は6月28日です。

米国農務省の2013-14市場年度の期末在庫予測は、2012-13年の期末在庫予測の2.5倍の19億ブッシェル（4,800万トン）です。

高生産量への期待が続く中、米国農務省は年平均農家価格をブッシェルあたり4.40-5.20ドル（トンあたり173-204ドル）と予測しています。2012-13市場年度はブッシェルあたり6.75-7.15ドル（トンあたり265-281ドル）と予測しています。

作柄

6月16日現在、米国トウモロコシの93%が出芽しており、これは過去5年の平均の97%を若干下回っています。同じ日のトウモロコシ作柄は、「良い」と「とても良い」が合わせて64%、28%が

今号の内容：

- 2ページ：主要トウモロコシ輸出国が同盟
- 4ページ：ネブラスカ州の農家の本年作柄への展望

平均で、「悪い」と「とても悪い」は8%だけでした。

トウモロコシの生育開始は遅れましたが、今週の温暖な天候により、急速に成長しています。生育期に適した天候が6月末まで期待され、コーンベルト全般で気温も適切で目立った乾燥も予想されていないと、気象学者のジョン・ディー氏はロイターにコメントしています。

イリノイ州の農家で農場管理とマーケット顧問会社も経営するジェリー・ガルク氏は、「場所によっては記録的あるいは新記録の生育」が見られ、6月中旬にイリノイ州を見て回ったところ、「非常に良い生育」が見られたと、APに語っています。

アイオワ州立大学の農業経済学者チャド・ハート氏は、コーンベルト東部のイリノイ州、インディアナ州、オハイオ州は良いスタートを切ったが、アイオワ州、ミネソタ州、ノース・サウスダコタ州、ネブラスカ州が出遅れていると、APに語っています。

3ページのトウモロコシ作柄へ続く

主要トウモロコシ輸出国による世界規模の問題に対応する同盟

トウモロコシ主要輸出3か国、米国、アルゼンチンとブラジルは、MAIZALL（国際トウモロコシ同盟、The International Maize Alliance）の同盟（アライアンス）を結成する覚書に調印しました。

覚書の調印者の一つであるアメリカ穀物協会は、MAIZALLの目的はトウモロコシ農家と関連団体が食料安全保障、スチュワードシップ（一貫管理）、貿易、バイオテクノロジー、生産者イメージなどの主要な問題に、グローバルに対応することであるとしています。

そのほかに調印したのは、米国の全米トウモロコシ生産者協会（NCGA）、アルゼンチンのMAIZARとブラジルのARBAMILHOです。NCGAは米国のトウモロコシ生産者を代表し、MAIZARはアルゼンチンの農家とトウモロコシのサプライチェーンを、そして、ARBAMILHOはブラジルのトウモロコシ生産者団体です。

各団体を代表して覚書に署名したのは、アメリカ穀物協会会長のドン・ファスト、NCGA理事長のパム・ジョンソン、MAIZAR会長のアルベルト・モレリ、ARBAMILHOの第2副理事長のセルジオ・ルイ・ボルトロツツです。

「世界人口と経済が成長する中、世界の中間階級は急速に増加しています。人口と購買力が増加し、世界規模の食生活改善するにつれ、これまでになく急成長するトウモロコシなどの食料や

飼料原料の需要を生み出しました」とファストは述べています。

アメリカ穀物協会は、世界人口が今後40年間に3割増加し、昨年の70億人から2050年には90億人を超えるであろうとしてい



ます。

食料安全保障はどの国にとっても優先事項であるが、食料自給を通じてではなくとも、輸出国との信頼関係を築くことによって、高品質の飼料や食品の長期にわたる信頼性の高い供給元となることができ、食料の確保をすることができるとジョンソン氏は述べました。

「世界の人口増加により、輸出国の生産者はスチュワードシップ（一貫管理）と持続可能性を改善しつつ、より少ない資源でより多くの生産を行う課題を背負っています」とMAIZALL会長のアルベルト・モレリは述べ、バイオテクノロジーは持続可能性を支持する一つの方法であり、MAIZALLの加盟参加国が採用しているとしています。

またモレリは、バイオテクノロジーは収量と穀物品質を飛躍的に改善し、農薬や肥料の使用頻度を減らし、土壌、有機物と水分を保全、節約したと述べました。

「農業バイオテクノロジーはより大きな、増加する世界人口のニーズに応え、気候変動への影響を削減するために必要なバイオ・エコノミーの重要な要素です」

MAIZALL 結成の覚書への公式署名後に拍手する各参加団体の代表

とモレリは述べました。

ボルトロツツは、世界の中間階級の成長が資源投入と食品価格への継続的な圧力を与えていると述べています。

「新たな農作物技術のレビューと承認について、予測可能で、機能的、実行可能で科学に基づく規制と貿易政策が世界各地の政府に存在しないことが、技術革新に深刻な重荷となっています。生産者にとっては、そのような、新たな技術導入の遅延は、より高い収穫とより低い資源投入コストの可能性を失っていることを意味しています。一方、これまでにない高さの食品価格に直面している消費者にとっては、その影響はより深刻です。

アメリカ穀物協会は、バイオテクノロジーのベネフィットを含む農業生産への消費者のより良い理解の必要性を訴え、飼料、食料、燃料としてのトウモロコシを生産力の増強への世界的な受容を進めることが、MAIZALL同盟の一義的な焦点であるとしています。

MAIZALLは同時に、貿易を円滑にするバイオテクノロジー政策と規制手順の必要性に関する、政府や利害関係者に向けたアウトリーチも進めていきます。◆



トウモロコシ作柄：高生産量を期待1ページより続く

多くのアナリストが今年は昨年より良いが、例年ほどにはならないと信じています。とても良い地域での収穫が、作付けられなかったり大量の水の被害を受けたりした分を埋め合わせるような形になるかもしれないと、ハート氏はさらに述べています。

世界の動向

米国農務省によれば、2013年の世界のトウモロコシ消費は、2012年の8億6,370万トン、2011年の8億7,900万トンであったのに対し、9億3,500万トンと予測しています。今年の世界のトウモロコシ生産は、やはり過去2年を1億トン上回る9億6,300万トンに達すると予測しています。

期首在庫を含めると、2013-14市場年度の期末在庫は、2012年の1億2,430万トン、2011年の1億3,230万トンであったのに対し、1億5,180万トンと予測されています。この数値が達成されると、12年間で最大の世界期末在庫量になることとなります。

他の主要トウモロコシ輸出国について、2013-14年にブラジルは7,200万トン、アルゼンチンは2,700万トンの生産と米国農務省は見積もっています。米国農務省は予想以上のセカンドクロープの生産量のために期末在庫を100万トン増やしたにもかかわらず、ブラジルの数値は今年より500万トン少なくなっています。アルゼンチンの数値は2012-13年度と同じです。

長期的な貿易問題は予想されませんが、アルゼンチンの農家は政府の政策に反対するために6月中旬に5日間穀物販売を止めました。このストライキは、アルゼンチンでは珍しいことではないですが、ロサリオに搬入する穀物トラックを顕著に減らしました。それでも、アナリストたちは、農家はすでに8割の2012-13年産トウモロコシを港に出荷したとしています。

メキシコで2012年後半から2013年にかけて家禽を襲った高病原性鳥インフルエンザの発生から回復しつつも、米国産トウモロコシへのメキシコでの需要は停滞するかもしれません。この発生によって、数百万羽の産卵鶏とブロイラーが殺処分され、そのロスを埋め合わせるために家禽製品のさらなる輸入さえも必要となりました。

アメリカ穀物協会メキシコ代表のフリオ・フェルナンデスは「インフルエンザ発生が米国からの飼料穀物輸入に影響を及ぼすことは間違いありません。それがどれくらいの数量になるのかは現時点では純粹に予測の域を超えません。確かにいえることは、今後状況が悪くなることはあってもよくなることはないであろうということです」と述べています。

現在、ウクライナでの海外企業による投資が、この国の農業セクターを支えています。ウクライナ政府の声明によれば、1月から3月までの間、農業への資本投資は25億UAH（3億600万米ドル）に及び、昨年同時期より1割高くなっています。従来より投資先として魅力的なセクターは食品産業、バイオエネルギー、穀物生産であり、農業への主要な投資はヨーロッパ全域から行われています。

米国大麦、ソルガム

米国農務省の月報は米国産大麦とソルガムの2013-14市場年度での生産に関する予測の更新を発表しました。

ソルガムについては、米国農務省は4億2,500万ブッシェル（1,080万トン）としています。これは昨年の2億4,700万ブッシェル（630万トン）と2011-12年の2億1,400万ブッシェル（540万トン）より顕著に増加しています。

大麦については、米国農務省は2012-13年と変わらず、2013-14年も2億2,000万ブッシェル（480万トン）と予測しています。

◆

ネブラスカ州でのトウモロコシ、作付け遅れから回復

最近の暖かく晴れた天気のおかげで、ネブラスカ州のトウモロコシは肥料層に届くまで根を張り成長を開始するとその速度を早め、初期に植えたトウモロコシは6月中旬には膝丈に達しました。この急速な成長の後に気温の低い曇りの天気によって生育が遅くなったことから、「急速生育症」とも呼ばれることもある「ねじれ渦巻き症候群“twisted whorl syndrome”」を起こしたトウモロコシも現れました。

農学者らによると、この症状がコーンベルト全体で平年以上に見られるとのこと。ただし、トウモロコシの生育全体からみると、天候によるこのねじれ渦巻き状の生育は、収量などに対して、たとえあったとしても最小限の影響しか与えないとのこと。

ネブラスカ州中部の農家、ブランドン・ハンニカット氏は、ねじれ渦巻き症候群にかかったトウモロコシもあるが、「気温の低い春の後に暖かい天気が訪れたときには、よくあることです。トウモロコシが生き生きと成長していてよかったです。もう少し気温が高くなってほしかった時に高くなり、幸運なことに、同時に水分も十分に得られました」と述べています。



ネブラスカ州中部の今年のトウモロコシ作付けは、5月1日までにほとんどの農家がトウモロコシと大豆の両方を作付け終わっていた昨年より難しいものでしたが、「今年は昨年より若干遅れて作付けが完了したと思われませんが、それでも、まだよい状況にあります」とハンニカット氏は述べています。

「4月27日くらいから播種を始め、雨で何回か中断しました。トウモロコシの作付けは5月の第3週でおおむね完了しましたが、何軒かの農家は大豆の作付けに6月の第2週までかかりました」

ハンニカット氏によると、通常より生育が遅れているために温暖で晴れた日をまだ必要としている農家が、地域によってはあるとのことですが、これは、単純に天候の問題です。

昨年の早く到来した春は暑くて乾燥した夏に続きましたが、もちろん今年はそのようなことは起こっていないようです。ハンニカット氏の農場は4月中旬に6インチ近く、場所によってはそれ以上の雨が降り、水分に関しては良い状況にあるとのこと。

ほとんどの米国トウモロコシはかんがいなしに生育しますが、ネブラスカ州のトウモロコシ畑の約6割は、オガララ帯水層やいくつかの貯水池から水補給（かんがい）を受けています。ネブラスカ州の農家は、昨年かんがい用水を大量に使いましたが、水分が十分にあるため、今年はこれまでのところ、ほとんど使わずに済んでいます。「現時点くらいになればすでに感慨を始めているであろうと、この4月中旬には考えていましたが、

ネブラスカ州中央部のハンニカット氏の農場の、しわがより、ねじれた葉は、急速生育症の証拠である。外見は良くないが、最終的な生育と収量へは、あったとしてもほとんど影響を与えない。

タイムリーに降雨があったため、もう少し成長するまで待つことができてきました」とハンニカット氏は述べています。



農家のブランドン・ハンニカット氏は Twitter (@CornFedFarmer) を持っている。

昨年は、かんがいによって1エーカーあたり240-250ブッシェル（1ヘクタールあたり15.1-15.7トン）の収穫をかんがい農地で上げることができました。これは平年よりエーカーあたり10-30ブッシェル（ヘクタールあたり0.3-0.8トン）上回っています。しかし、かんがいしなかった農地では、2012年の夏の高温で乾燥した天候のため、非常に低い単収しか得られませんでした。天水の農地の単収はエーカーあたり10-15ブッシェル（ヘクタールあたり0.6-0.9トン）で、これは平年よりエーカーあたり150ブッシェル（ヘクタールあたり9.4トン）低い数値です。

今年の作付けは幾分遅れましたが、涼しい春も単収を抑える原因になるかもしれません。ハンニカット氏は、それでも良い天候に恵まれればエーカーあたり230-240ブッシェル（ヘクタールあたり14.4-15.1トン）の単収をかんがい農地で上げる可能性が十分にあると述べています。非かんがい農地では平年に近い150ブッシェル（9.4トン）近傍とみっていますが、それでも平年よりは若干低めです。

「ネブラスカ州全体に、とても良いトウモロコシ作柄になる基盤はできました。しかし、特に州の西部や南西部では、まだ局地的に乾燥している地域があります。これらの地域でタイミングよく降雨があると同時に、これからのトウモロコシが成長し、カギとなる7月初旬の受粉期の天候が引き続きよくなることを願っています」とハンニカット氏は述べています。◆